



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
https://www.kokubunken.or.jp
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

浮遊する日本の行く末を憂ふ

——国是を共に考へよう——

青山直幸

ロシアによるウクライナ侵攻やイスラム原理主義組織ハマスとイスラエルの戦闘を初め、世界各地で武力紛争が多発してゐる。又、中国は覇権を拡大させようと、日本を始め隣接する国々の領海侵犯や海底資源の調査を繰り返してゐる。このやうに国家間の威嚇や衝突により、国際秩序が大きく揺るぎ始めてゐるが、国連安全保障理事会の紛争抑止能力は機能せず、アメリカも影響力を低下させてゐる。グローバルサウスといはれるアジア・アフリカ諸国の擡頭は今後益々著しくなるであらう。国際秩序の再構築に向けて、日本ならではの見識や発想に立つて発言し、存在感を高めてゆべき時が到来してゐる。

一方、日本国内は人口減少、少子高齢化が進行して、経済を支へる労働力人口は減少の一途を辿ると予測されてゐる。現在でも私が勤務する建設業を始め、医療、福祉、物流等の業界の人材不足は深刻である。かうした状況の中で在留外国人労働者や移民は年々増加してゐる。移民は令和元年四月に施行された「改正入管法」により、人材が不足してゐる特定の技能の保有といふ条件で制限されてゐるが、今後は国際的な武力紛争や戦争の激化によつて、多くの難民や移民が発生して、日本への受け入れ圧力は、益々高まって来るであらう。ドイツを始め西欧諸国では、移民問題は国を揺るがす深刻な政治課題であり、日本でも避けられない現実とならう。

日本は、かうした難題に対処して、これまでのやうに、アメリカやEU諸国に追随、同調してゐれば、済むことではない。対症療法的な政策ではなく、長期的な視点に立つた日本独自の一貫性のある戦略が求められるのではなからうか。しかし、現在の日本は、内外の複雑な諸問題に対し、適確な判断をして行ける国家的な基軸を持つてをらず、浮遊する小舟のやうに思へる。世の人々は、「民主主義」があるではないか、といふかもしれない。戦後の日本は、アメリカの占領政策の大方針として打ち出された「民主主義」をやむなく受け入れ、享受し運用してきた。確かに、「民主主義」は、ナチズムのやうな全体主義や共産主義国家のやうな一党独裁制に比べれば、まだまだな政治制度であらう。しかし、日本国民が祖先から受け継ぎ育んで来た精神文化や価値観を発現出来る制度なのだらうか。長谷川三千子先生(埼玉大学名誉教授)は『民主主義とは何なのか』(文春新書)の中で、民主主義の成立過程を詳細に考察し、そのいかにがはし、さや危ふさを指摘されてゐる。民主主義と聞いて思ひ出すリンカーンの言葉「人民の人民による人民のための政治」の「人民のための政治」を成立させる為には、良き指導者があることが肝要であり、「その指導者と共同体のメンバーとがどれだけ信頼し合ひ一致協力して事に当たるか」とが出来るか」が必須の要件で

あると説かれてゐる。つまり共同体としてのアイデンティティがあつてこそ、民主主義の理念が具現化できるのである。それが無ければ、国民は分断され、一部の過激で狂信的な集団によつて議会が暴走しかねない危ふさを持つてゐるのだ。

それでは、日本国といふ共同体としてのアイデンティティとは何か。それは、我々の祖先が、長い歴史と自然の中で大切に守り育てて来た国柄を土台に描いた、将来にわたり国民が共感でき誇りが持つ「国のあるべき姿」であらう。そこに立脚してこそ、内外の現実の諸問題に毅然として対処してゆける国家としての方針——国是(こくぜい)を打ち立てることが出来るのではなからうか。明治天皇は、明治維新に当り、国是として定められた「五箇条の御誓文」を政府の高官を率ゐて、天地神明に誓はれた。この国是が広く国民の心に浸透していったからこそ、列強の圧力の中で独立不羈の近代国家を築き上げ、様々な変革を行ひ得たのである。混迷を深める国際環境の中で噴出する諸問題を適確に判断し行動してゆくべき基軸となる国是は今こそ国民皆で考へるべき時が来たのではなからうか。

(戸田建設(株) 再開発部)